人と自然、人と人とをつなぐ里山　令和3年度　NO138
NPO法人**里山会公文名ファイブ通信**　2022(R4)2月号
「SDGs未来都市」を目標に里山会公文名ファイブは活動を進めています。

令和4年1月度の活動

食農食育　1月9日　滝ヶ窪圃場　麦踏み

寒い朝でしたが、こども達と一緒に麦踏みを行ないました。
この作業は、麦の生長をよくする為に行なう大事な作業です。
小麦栽培は、市内では現在、ほとんど栽培されていません。
NPO法人里山会公文名ファイブは、活動の当初から食農食育活動の一つとして、小麦栽培を行なっています。
目的は、図に現しているように、健康で生きる、親子・友達の絆、を目指しています。
また、地域の食べ物復活、そして、地域の特産づくりを目指しています。
耕作放棄地を活用した食農食育活動に参加をお願いします。

「野鳥・昆虫が寄ってくる森づくり」
仙郷の森づくり　1月13・20・27日　仙郷の森（多目的広場）

赤色の線が現在、整備を進めている場所です。

NPO法人里山会公文名ファイブが「野鳥・昆虫が寄ってくる森づくり」を始めてから10年程になります。
森林保全活動（仙郷の森づくり）は、環境学習の一環として、行なっています。
そして、木育・森育の場としても活用しています。
さとやまレンジャー（親子体験活動）の環境学習として、森の恵みとしてクラフト・森の音楽会に活用しています。
森林ウォーキングも行なっています。是非、森へ遊びに来て下さい。

裏面にR4年2月度の活動予定を掲載しています

里山保全活動　令和4年2月度予定

☺☺環境学習フェスティバル　さとやまレンジャー《親子体験学習》☺☺

◇日　時　　令和4年2月26日（日）　9:30～12:00
◇集合時間　　9:15（受付開始）
◇活動場所所　　豊富士産業㈱工場・偕楽園芝生
◇対 象 者　　さとやまレンジャー（親子体験学習会員）
◇活動内容　　廃プラリサイクル～燃料・ネイチャーゲーム
◇服　装　　普段着・運動靴（長靴）
◇費　用　　子ども200・大人300円　・一般参加者300円（材料代・保険代）
◇持　物　　弁当・飲料水・帽子・手袋・タオル・筆記具・マスク
※会員：参加者の方は1月12日までに連絡をお願いします。
（090-2689-6913（須藤）

☺☺昆虫・野鳥が集まる「仙郷の森づくり」参加者募集☺☺

✪日　時　　毎週木曜日✪活動時間　10:00～14:00
✪集合場所：仙郷の森（多目的広場）✪対　象：森づくりをやってみたい方
✪活動場所　仙郷の森（多目的広場）✪活動内容　雑木・竹伐採片付け等
✪参加費　　無料✪服　装　作業できる服装　※道具はお貸しします。
✪持　物　弁当・手袋・帽子・飲料水・弁当
※参加してみたい方、木曜日以外に参加希望の方は須藤まで連絡をお願いします。090-2689-6913

豊かな森は、自然からの、かけがえのない恵みです。

静岡県の森は、どんな森?

「最近森に出かけていないよ」「森はみんな同じでしょ ?う」・・・・・そんな、みなさんの身近なところにも、森の恵みはあふれています。

例えば水。狩野川（黄瀬川・大場川）、富士川、安倍川、大井川、天竜川に代表される静岡県の豊かな水は、上流に広がる森からの贈り物です。

そして木材。心安らぐ住まいに欠かせない木を、森は年々育てながら、蓄えています。
静岡県は面積の約65%が森林で、全国的にも森に恵まれた県なのです。

静岡県の森のうち、4割は自然の力で成長する天然林、6割は人と自然の共同作業で育てられた人工林です。
田畑と同じように、人工林も手をかければかけるほど、良い木材を常に生産することができ、森としてますます健やかになっていきます。その生命力は天然林にもひけをとりません。
表情豊かな静岡県の森。自然の力のたまものである天然林と、人の手のたまものである人工林。

「野鳥・昆虫が集まってくる」森づくり

箱根外輪山三国山西麓里山　NPO法人里山会公文名ファイブが行なっています。

★木の実と野鳥の密接な関係★
小さく、熟すと赤など鮮やかな色になる木の実は、少なくありません。

じつは、その理由も鳥と密接な関係があるようです。植物は、自らの意志で移動することができません。
しかし、種の繁栄を考えるとなるべく遠くにタネを届けたいところです。

そこで、一部の植物は戦略として、鳥に目立つように進化し、野鳥が丸呑みできる大きさに進化したと考えられています。木の実は、タネが成熟すると野鳥に食べてもらうために色を変えます。そして、熟した実を一部の野鳥は丸呑みにし、果肉部分を消化し栄養として取り込み、消化できないタネを少し離れた場所で排泄します。

排泄されたタネはその地で芽を出し、生長していくという関係ができています。
植物の中には、鳥の消化器官を通ることで発芽率が上がる種類があることも分かっています。

地球は、人間だけが住むだけの場所ではない、動植物が一緒に暮らす場所です。

NPO法人里山会公文名ファイブ